
インターネットを利用した 転職支援サービス

(人材の流動化とインターネット)

株式会社リクルート人材センター (RJC)
総合企画部 シニアマネジャー 小林 光夫
TEL.03-3592-5534
E-mail : koby@rjc.co.jp
URL://www.rjc.co.jp

抄録

- リクルート人材センター (RJC) では、求人企業に転職希望者を紹介するサービスを行っているが、1995年よりインターネットを活用した転職支援サービスにも取り組み、現在Webサイト「Career Square」の運営を行っている。
- 本レポートでは、弊社の「Career Square」の紹介にとどまらず、インターネットユーザーの転職活動の実態を紹介しながら、ユーザーが望む転職支援サービスと人材流動化の方向性について触れたいと考えている。

リクルート人材センター概要

■ 会社データ

- 社名：株式会社リクルート人材センター（以下：RJC）
- 事業内容：求人企業への人材斡旋と人材活用に関する
コンサルティング事業
- 設立：1977年11月
- 資本金：4億8000万円
- 従業員数：186名

■ 求人/求職データ

- 求人数：約1万6000件
- 求人社数：約1800社
- 年間受付数：約3万名
- 年間登録数：約1万5000名

RJCがインターネットを活用するまで

■ パソコン通信の活用

- 1990年頃Nifty-ServeならびにPC-VANにフォーラム開設
コンテンツ管理ならびにE-Mailアクセス者への問い合わせに対応できる運用体制が整わず、充分活用仕切れていなかった
- 1994年Nifty-Serveのフォーラムのリニューアルを実施
上記反省を踏まえ、兼務担当者ではあるが運用体制を強化し、Nifty-Serveを利用した登録希望者の急増に成功した

■ インターネットの活用

- 1995年3月 リクルートのHome Page Mix Juiceの立ち上げに参加
リクルートMix Juiceをレンタルサーバとして活用、ダイヤルアップでコンテンツ更新を行った
半年間のフジリティーを経て、RJC単独サーバの立ち上げ準備に取り組んだ
- 1996年7月 RJC単独のHome Page Career Squareをカットオーバー
Webサイトの立ち上げと共に全社員にE-Mail環境を整備した
- 現在、Career Squareは月間80万ヒットを超えるサイトに成長した

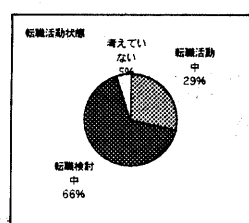
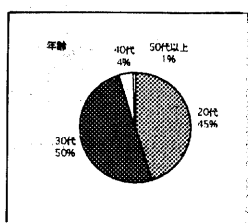
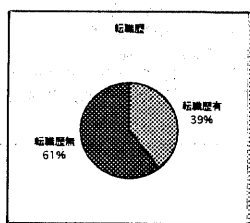
I-NET Userを活用した転職活動について

■ 「I-NETを活用した転職活動に関する調査」実施

- 対象：弊社Career Squareメーリングリスト参加者約5,000名
- 時期：発送/1997年4月11日 回収/1997年4月15日
- 有効回答数：488件

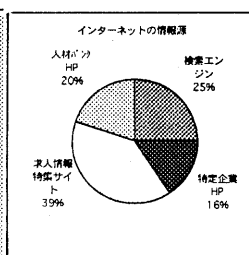
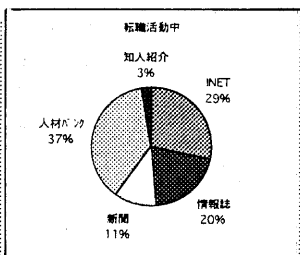
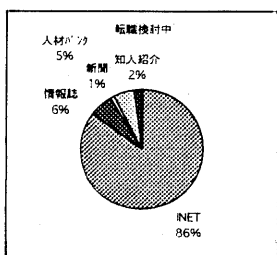
■ アンケート回答者の属性

- 転職経験者約39%、未経験者61%
- 20代45%、30代50%
- 転職活動中の方29%、転職を検討している方66%
(転職に関心のある方95%)



転職活動状況と利用メディアについて

- 転職を検討している段階の方はI-NETを積極的に利用している（86%）
- 情報源として求人情報特集サイトや検索エンジンの利用者が多い（64%）
- 転職活動に進んでいる方はインターネットより人材バンク（37%）や求人広告（31%）の利用者が多くなる
- 転職を考え始めた初期段階ではインターネットで幅広く情報収集し、いざ応募という段階に至ると他のメディア利用する傾向がある
- インターネットを利用する理由は、「手軽さ」「スピード（情報の鮮度）」



転職情報源としてのI-NETの信頼性

■ インターネットは他媒体より信頼性は低い

- インターネットとは対局に位置するマン to マンのインターフェイスを持つ、人材バンクや知人に信頼を寄せる方が多い

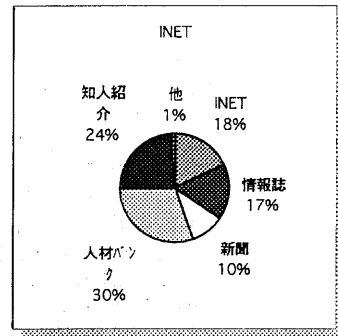
● I-NETを信頼できない理由

「生の意見や声を聞けない」

「裏話・実情などがI-NETではわからない」

「急募なのか長期的に募集をしているのかわからない」

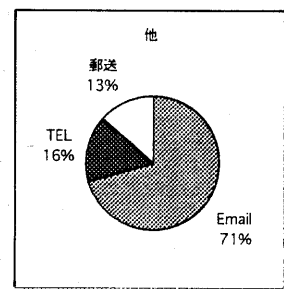
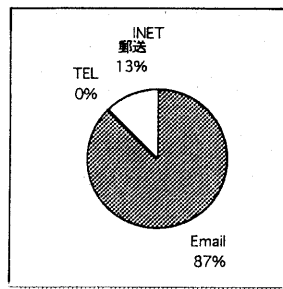
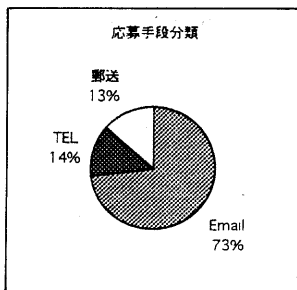
「情報に偏りがあり、客観性がない」など



応募手段としてのI-NET/E-Mailの有用性

■ 全体ではE-mailを積極的に利用した方が73%

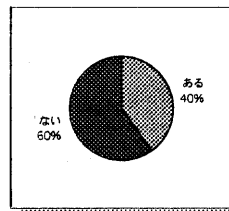
- I-NETを情報源として重視する方では、応募手段でもE-mailを利用したいと考える方が 87%と圧倒的に多い



企業HPへの問い合わせについて

■ 企業HPへの問い合わせ経験者40%

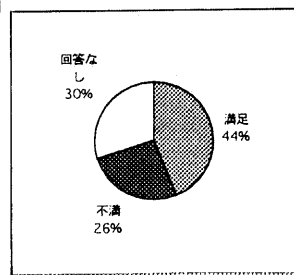
- 企業HPに問い合わせをしない理由として、「情報が偏っており、信憑性に乏しい」「更新度が低いので、本当に募集しているのか疑わしい」という辛辣な意見が多かった
- E-mailを積極的に利用したい理由
 - 「簡単、気軽」
 - 「速い」
 - 「時間に縛られない、好きなききに連絡が取れる」
 - 「会社からでも転職活動ができる」
 - 「電話だと緊張するが、Mailだと気軽にコミュニケーションとれる」
 - 「自分のPCスキルをアピールできる」
- E-mailを利用したくない理由
 - 「セキュリティが心配」といったシステムの不安
 - 「担当者と直接話をして安心したい」というインターフェース的な不満
 - 「Emailで応募するというのが、相手にとって失礼にあたるような気がするのでひかえている」
 - 「Emailに長けていない人事担当者が相手だと、自分のMailがおざなりにされるのではないか？」



E-Mail問い合わせに対する企業の対応

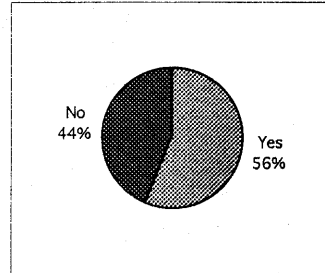
■ 企業の回答なし、回答に不満だと感じている方が 56%と過半数を超える

- 企業HPへの期待
 - 「少なくとも、現在採用しているのかしていないのか、という情報は正確にお願いしたい」
 - 「企業の中身が見える、ホンネベースのHPを期待したい」
 - 「給与・待遇・福利厚生といった詳細情報もきちんと載せて欲しい」
 - 「双方向のコミュニケーションがとれるページにして欲しい」
- 企業側のI-NET対応の実状
 - 一方の企業側は、人事のパワー不足もあって頻繁なページの更新はできないでいる。
 - 問い合わせに対応しようにもこれもマンパワー不足で対応し切れておらず、場合によっては問い合わせ欄をクローズする企業も現れている
 - HPで人材採用しようとするからには、相当の準備をしないと、かえってユーザーを離反させてしまうことになる



自分のキャリアの I-NET 公開について

- I-NET 上に自分のキャリアを公開し、興味を持った企業からのアプローチをするサービスに参加したいと考えている方が 56% と半数を超える
- 積極的に参加したい理由
 - 「自分の評価を客観的に判断できる」ことを理由に挙げる方がほとんど
 - 「転職するチャンスが増える」
 - 「自分のキャリアに自信がある」
- 積極的に参加したくない理由
 - 「セキュリティ面で不安。」
 - 「転職活動していることがばれると、非常にまずい。」
 - 「学歴でしか判断しない企業が多い」
 - 「ハードデータ勝負の仕組みになると辛い」



I-NET における人材流動化のこれから

■ I-NET を利用した転職活動の今後

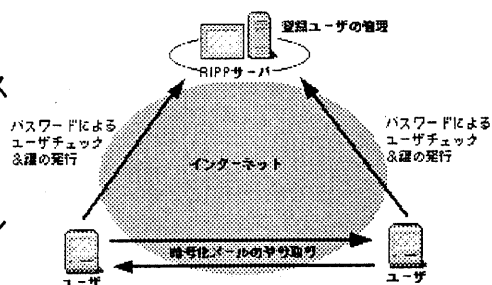
- 転職希望者は初期の情報収集段階において、インターネットの簡便性・スピード・情報量を重視しており、ますます活用されるようになる
- 実際の転職活動段階では、情報の確実性が重視されインターネットの信頼度に課題を残している
- 企業からの情報発信を活発化し、ユーザーからの問い合わせや自己アピールを受け止めるキャパシティーを企業が持つことで人材の流動化は加速する

■ ユーザーが求める I-NET における転職支援サービス

- 正確・タイムリーな求人があり、
- 表面上の情報だけではなく、口コミや裏情報など「ナマ」の声が拾えて、
- 志向や意見を自分からアピールし、反応が得られる双方向機能を持ち、
- 転職活動をしていることを周囲に気づかれることなく、自己に対する客観的な評価を得られるサービスが望まれている

RJCが提供する転職支援サービス

- 豊富な情報量 → 求人企業300社以上を常時掲載
- ほぼデイリーでの更新頻度（祝日除く月～金・毎日）
- 実際の転職体験談をベースにしたコラムや転職How Toを充実
- トランスコスモスと共同で電子メールの暗号化サービス「RIPP」を開始
- RJC全スタッフによるE-Mailでの個別コミュニケーションサービスを提供



RIPP（リップ）とは？

- インターネット上の電子メール送受信を安全に
RIPPサーバに必要なデータを登録するだけで、同じサーバに登録された別のユーザと暗号化されたRIPP自体は文章やファイルを暗号化する機能しか持ちませんので、メールの送受信にはお好きなメールソフトをご利用いただくことが可能です。
- 安全性の高い、セキュリティ・システムを採用
自分の決めた暗証番号を入力するだけで、データ送受信の準備はOK。使いやすいグラフィカル・ユーザ・インタフェースのもと、簡単操作を実現しました。データの安全性に対する配慮も万全。個人の暗証番号をもとに生成される暗号鍵は、通信のためにダイナミックに変更されず、暗号化されたデータそのものを盗まれたとしても、中味の解読はほぼ不可能です。
- Windows、Macintosh、UNIXなどマルチプラットフォーム対応
WindowsからMacintosh、WindowsからUNIXといったようにメールソフトや機種やOSにとらわれないマルチプラットフォームへ対応します。各OS用のRIPPアプリケーションが必要になりますが、順次リリースしていく予定です。
- トランス・コスモスの高速暗号化技術
トランス・コスモスが開発した暗号システムには、暗号化の鍵と復号化の鍵が異なる公開キー方式で、国際的に普及が予想されるRSA暗号体系とキー体系の互換性を持つシステムもあります。RSA方式の最大の課題と言われていたタイムラグも解決し512ビットで1秒以下の高速性を実現しました。